



ペチヤクチャ カナダ人

英語指導助手/アシュリー・ペトゥルツチ

A Tale of Two Countries – Part 1

Instead of returning to Canada over winter vacation, I decided instead to visit India. India has always been on my list of “Countries to Visit” and so, with travel guide in hand and a volunteer opportunity waiting, I departed snowy Hokkaido for sunny India.

At first glance, India appears dirty, chaotic, poor and smelly. All of these things are true about this developing country, yet not necessarily a fair assessment of a complicated place. India is a country so vastly different from Japan that it is impossible not to experience culture shock.

Yet on closer inspection, India is, as some people call it, “a diamond in the rough”; which means that India’s exterior merely disguises the kindness of the people, the beauty of the land, and the astonishing architecture that is scattered throughout the country.

India is a country of diverse languages, religions and food, all of which I cannot discuss here, but I certainly plan to divulge some things next month!

二国物語—その1

冬休みはカナダに帰らず、インドに行きました。ずっと私の中で「行きたい国リスト」に入っていた国です。雪深い北海道を、ガイドブック片手にボランティア活動の待つ光溢れるインドへと旅立ちました。

一見するとインドは、汚く混沌として貧しく臭い。確かに発展の途上にあるこの国ではそういう面があります。でもそれだけではこの複雑な国を公正に評価したとは言えないはず。日本とは大きく違うので、カルチャーショックは避けて通ることはできませんが。



まあインドはよく見れば人が言うように「ダイアの原石」。実は人の優しさや、国の美しさ、国中に散らばる素晴らしい建築物が埋もれているのです。

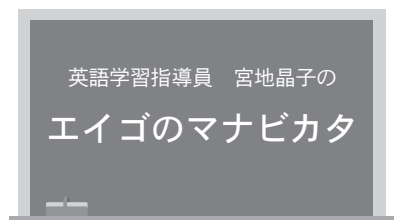
インドは多様な言語や宗教、食べ物の国です。来月はそのことを書こうと思います。

(訳：宮地晶子)

【ちょっと豆知識】

インドといえば多言語の国。50ヶ国語離れただけで言葉が通じないことがあり、英語がその仲をとりもっています。またインドは多宗教の国でもあります。一番信者の多いヒンドゥー教では、牛は聖なる生き物で、牛肉を食べるなんてもってのほか。次に多いイスラム教では豚はけがれた動物。豚を食べるのはもってのほか。なかなか食べものにありつけない。でも意外においしいのがパンと紅茶。英語に紅茶にパン。イギリスの影響大ですね。

「量質転化」という言葉を聞かれたことがあるでしょうか。何を身につけるにしても、量をこなせば質が上がる、ということ。これはスキーをやる人には実感しやすいのではないのでしょうか。黙々とこなしているとき滑りが変わるその瞬間です。プレイクスルーとも言います。英語も体育会系と同じで、量をこなすことが欠かせません。漢検が最近ブームですが、漢字の記憶の定着にも平均40回書く必要があるそうです。40回書けば一生忘れなれないといえます。では中学生は英単語を覚えるのに何度書いているのでしょうか。英語ができないという生徒は間違いなくこ



第47回
量質転化

の「書く」という量が確保できていません。中学生の英語には実はそんなに複雑な内容はありません。とにかくガンガン音読する、そして数を書く。これにつきます。最近生徒にこういう要求をしました。題して「自主勉ノート」。自主的に英語を書いてきて見せたらスタンプを一個押します。書くことの効果を手遅れにならないうちに実感してほしいからです。書いているうちに自分の記憶定着ゾーンが40回より少ないか多いかがわかってくるでしょう。自分に合った回数を見つけていけばいいのです。10回で済む人もいれば60回必要な人もいます。それは個性です。書けば書くほど着実に量が質を作ります。すると書く回数が少なくなっても覚えられるようになってきます。一度見ただけで単語が覚えられない、いや聞いただけで初めての単語が書けるようになりません。これとは逆に、質の良い勉強をしたからといって量を補うことはできないのです。